滝の原便り

社会福祉法人西仁会　広報誌
〒320-0851　宇都宮市鶴田町３３８１
TEL　028-632-7577

さわやかな秋晴れにつられて、筑波山（つくば市）の麓にある小田城跡を散策してまいりました。この城跡は鎌倉から戦国時代に常陸国（茨城）の南部に勢力を誇った小田氏の居城跡です。小田氏15代の氏治は「戦国最弱の武将」として歴史番組などでもよく取り上げられ、ご存知の方もおられるかと思います。本拠となる小田城を何度も奪われ、その都度奪還してきましたが、1569（永禄12）年佐竹義重との戦いに敗れ城は佐竹氏に落ちます。1590年氏治は佐竹氏に対し奪還を試みますが、果たせませんでした。その後、小田城は佐竹氏が秋田へ移封されることで廃城（1602年）となります。

それから420年が経過、これまでの発掘調査の成果をもとに「小田城跡」は中世の姿を復元した「歴史広場」として整備されました。小田城は本丸を中心に三重の堀と土塁に囲まれた平城で約21万㎡に及びます。本丸部分（約2万㎡）の八田氏居館が最初で、次第に防御の城郭、さらに戦闘用へと強化されていったようです。本丸の建物や池などの遺構は保護の措置が講じられその真上（地面）に復元・表示されています。堀や土塁などは戦国時代末期の状態で復元されています。この地で半日間過ごさせていただきましたが、小田城奪還に執念を燃やした「氏治」の気持ちを少しは理解できたような気がします。

さて、小田氏の祖は、NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」に登場する「八田知家」。知家が当地に移って居館を構えたのが小田城の始まりといわれています。ただ、ここを本拠とする時期は初代知家や「小田」を名乗り始めた４代時知など諸説あるようです。

八田知家の父は宇都宮氏二代「八田宗綱」、兄は「宇都宮朝綱」。そして宇都宮氏の祖は藤原氏の出身と伝えられる「宗円」です。11世紀半ばの「前９年の役」に際して奥州に下向した源頼義・義家に祈祷僧として東国に下り、以後宇都宮明神（現宇都宮二荒山神社）の社務の統括責任者（座主・検校）となったと伝えられていますが、系図以外にその存在などを明らかにするものはありません。二代「宗綱」は鎌倉幕府の公的資料「吾妻鏡」でその実在が確認できます。宗綱は「八田」を名乗って京都、そして東国で武士として活動し、名字の八田は常陸小栗御厨内に所在した八田（茨城・筑西市）に拠点があったとみられています。こうした活動は子の「朝綱」や「知家」にも受け継がれていきました。

三代朝綱は宇都宮方面に勢力を伸ばし鎌倉幕府の成立への貢献から「宇都宮社務職」の地位を源頼朝から認められ、同時に神社の名前である「**宇都宮**（明神）」を名字としました。中世宇都宮の実質的な成立は「朝綱の時代」ということになります。一方、父・宗綱の名跡を継いだ八田知家は鎌倉政権樹立の貢で常陸の国の守護に任じられ南部方面に勢力を一層広げていくのです。

八田知家の時代から約400年後（1590年）、小田氏15代の氏治は、小田原征伐に参陣せず豊臣方の佐竹氏に小田城奪還の兵を起こしたことを理由に所領をすべて没収され、小田氏は事実上滅亡します。

宇都宮氏はどうなったのでしょうか。天正年間（1573-92）、宇都宮氏22代国綱にとって最大の敵は、小田氏治が頼りとする小田原の北条氏であり、また一番頼りとする者は小田氏治の最大の敵・佐竹義重（常陸国）でありました。宇都宮と小田では敵・味方が相反し、直接的ではありませんが敵対関係にあったのです。

1590（天正18）年、豊臣秀吉は北条氏の小田原城を攻めるため、関東各地の大名に協力を求めました。宇都宮国綱は小田原に駆けつけ秀吉に従いました。７月には北条方の降伏で小田原攻めは終了し、北条側についた者の所領は没収されました。

その後、国綱は秀吉から大名としての存続を認められ、朝廷の官職「侍従」にも任じられたのです。ところが、1597（慶長２）年に突然、秀吉から領地没収となるのです。理由は所領の過少申告や家臣団の内紛騒動など諸説ありますが、定かではありません。こうした歴史の結末を、宇都宮氏の実質的に初代となる朝綱、そして小田氏の祖八田知家はどうお思いになるのでしょうか。

（理事長　高野　俊彦）

令和４年１１月１日発行

ファミール滝の原

【ファミール夏祭り】８月20日

今年は水ヨーヨー・金魚すくい・たこ焼きビンゴの３種類ゲームを用意しました。職員お手製のためちょっとしたハプニングもありましたが、明るく賑やかな行事となりました。最後には職員対抗の「辛いもの」選手権！女性のほうが辛さ慣れしているようです。

【国体開催】10月1日

開会式でのブルーインパルス祝賀飛行を施設屋上にて観覧しました。

【十五夜】９月10日

【花火大会】９月17日

夏から天候の関係で延期となっていた花火大会を開催。

【敬老の日】９月19日

【十三夜】10月８日

通所リハビリテーション

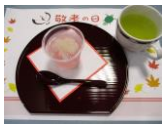
〈壁の作品〉

製作していた壁画ひまわりが完成し廊下を通る人の目を楽しませてくれました。

今壁には、リンドウと赤とんぼを思い浮かべて作った９・10月の作品、そして窓には色画用紙で作った。柿の吊るし飾りが貼ってあります。外はすっかり秋ですが、作品を見ても季節を感じてもらえたらうれしいです。

〈昼食〉

いつもの食事も行事の食事も栄養面を考えた献立でみなさんとても美味しそうです。



〈作品を制作中です〉

11月に近隣小学校で文化祭が開かれます。文化祭内の作品展に、利用者さんが作った作品を展示することになり、製作しています。

滝の原苑

〈夏祭り〉 8月24日（水）

「滝の原夏祭り」を開催致しました。

今年の夏祭りはミニ夏祭りとなりましたが、お神輿が会場をねり歩き、日光和楽踊りを楽しみました。

昼食は屋台メニューを召し上がって頂き、午後は「のど自慢大会」を開催しました。

のど自慢に参加される方も応援される方も大変盛り上がり、楽しいひと時となりました。

〈十五夜お茶会・夕食会〉 9月10日（土）

「十五夜昼食会・お茶会」を開催致しました。

今年の十五夜メニューは「舞茸ごはん」「さんまの甘辛煮」「白和え」「漬物」「けんちん汁」と、秋の味覚盛りだくさんのメニューとなりました。

お茶会メニューはうさぎちゃんプリンでした。

〈敬老祝賀会〉 9月19日（月）

「敬老祝賀会」を開催致しました。

「お赤飯」「天ぷら盛り合わせ」「ゆばの含め煮」「蟹ときゅうりの酢の物」「茶碗蒸し」「お吸い物」「季節のフルーツ」でした。

「天ぷらの盛り合わせ」は人気メニューの１つで、中でも「エビの天ぷら」は不動の１位であり、皆さん大変喜ばれておりました。

〈十三夜昼食会・お茶会〉 10月8日（土）

「十三夜昼食会・お茶会」を開催致しました。

今年の十三夜メニュー「お月見カレー」「お月見サラダ」と「具だくさんスープ」でした。

とても可愛く盛り付けられており、「食べるのがもったいない」となかなか手が進まない利用者の方もおりました。

お茶会メニューはお月見ゼリーとお月見団子でした。

ケアハウス滝の原苑

〈ブルーインパルス〉

栃の葉国体の開催日、敷地内でブルーインパレスの見学会を行いました。

十五夜　9月10日（土）

お昼は炊き込みご飯やお団子付きの十五夜御膳を頂きました。

夕食後は屋上に上がりお月見。天気に恵まれとてもきれいなお月様を眺めることができました。

ご存知ですか「頼朝の乳母・寒川尼（さむかわのあま）」

源頼朝の乳母は少なくとも比企尼、寒川尼、山内尼、三善康信の叔母の、４人はいたといわれています。比企尼（ひきのあま）は、現在放送中の「鎌倉殿の13人」にも再三登場しご承知の方もたくさんいらっしゃるかと思いますが、４人のうちの一人で宇都宮にゆかりのある「寒川尼」とはどんな人だったのでしょうか。

「寒川尼」は、宇都宮氏二代八田宗綱の娘で、京で育ちました。宇都宮朝綱は兄であり八田知家は弟となります。源頼朝の乳母となった確かな時期は分かりませんが、頼朝の約８歳年上で、頼朝が「平治の乱」で伊豆に流されたのが1160年（頼朝13歳）ですので、長くとも「平治の乱」前の約10年間、乳母というより姉という立場で接していたと考えられています。その後、寒川尼は下野国に下り、下野の豪族小山正光の後妻となります。

1180年、頼朝は挙兵しますが、石橋山の戦いで大庭景親の大軍に完敗。態勢の立て直しを図り東国武士に広く参陣を求めます。三浦一族、千葉一族、上総広常などが次々と合流する中、10月２日寒川尼は実子で14歳の三男「七郎」を連れ、隅田宿（東京・墨田区）の頼朝の陣を訪ね、七郎の奉公を願い出たのです。頼朝は20年来の再会に大変喜び、七郎の烏帽子親となって元服させ「小山宗朝」と名乗らせました。後の「結城朝光」です。

当時、小山正光は京都の御所などの警護を務める役目で、平家の指揮下にありました。源平合戦の勝敗が分からない段階での寒川尼の判断行動でしたが、これにより小山氏、結城氏、宇都宮氏など下野の武士団が頼朝方に付くことに大きな影響を及ぼしたのです。

1187年12月１日、寒川尼は寒川郡と網戸郷の地頭に任命されました。鎌倉幕府の記録（吾妻鑑）には「女性たりといえども、大功あるによってなり」とあります。女性地頭の先例はないが、それだけの功績があったということですが、これが女性地頭の最初でした。寒川尼は1228年91歳で死去、墓地は小山市網戸神社に隣接する「称念寺」にあります。

新入職員のお知らせ

滝の原苑

介護職

ファミール滝の原

介護職

編集雑記

原材料の価格高騰や円安などの影響でしょうか、食品や外食などの値上げが止まりません。実りの秋・食欲の秋なのに困ったものです。

ダイエットにはいいかも・・？それでもやっぱり食べたい！

間もなく寒い季節を迎えますが、大幅に高騰している電気やガスなどのエネルギー価格にも困ります。暖冬を期待したいのですが、長期予報（12～２月）では平年より低くなる見込みです。予報は外れることもままありますので、暖冬に大きく振れて欲しいですね。

42年ぶりの開催となった「いちご一会とちぎ国体」が10月11日閉幕しました。新型コロナの影響で３年ぶりの開催でしたが、注目された天皇杯（総合一位）と皇后杯（女子一位）は残念ながら獲れませんでした。天皇・皇后双方を獲得できた昭和55年栃の葉国体から今大会まで（39大会）、開催地以外の都道府県が天皇杯を獲ったのは今回含めて４度あります。獲得したのはいずれも東京都です。開催地の都道府県には極めて有利な方法になっているのですが、東京都はやはり別格ですね。ハンデをつけてもいいのかも知れませんね。

新型コロナウイルス第７波は比較的落ち着いた状態にあるようですが、高止まり傾向もみられます。11月に入り水際対策が大幅に緩和され全国旅行支援やイベント支援なども始まり国内外からの観光旅行やスポーツ・イベントもコロナ禍からの需要回復が急速に進んでいるようです。心配なのは第８波、人々の行動次第では12月中半あたりから増え始め、１月下旬にピーク（東京で約1.4万人／日）という予測もあります。第８波も主流はオミクロン株BA.5、インフルエンザの同時流行可能性もあるようです。欧米中心に脱マスクが進む中で、日本でも着用基準を見直すようですが、タイミング的にちょっと心配です。

サッカーのFIFAワールドカップが中東カタールで間もなく（20日から）始まります。日本のいるグループは「死の組」ともいわれ、グループリーグ突破が非常に難しいとされています。23日の初戦はドイツ代表、頑張って欲しいですね。

季節の変わり目、ご自愛ください。

次回は新年２月１日に発行予定です。